



WEリーグで
活躍することで、
女子プロサッカー選手を
憧れの職業に!

Closeup Interview

クローズアップインタビュー

栗井 俊介 氏

あわい・しゅんすけ

株式会社マイナビフットボールクラブ 代表取締役社長

プロフィール

1981年1月5日生まれ。
大阪府出身。2003年4月、(株)毎日コミュニケーションズ(現:(株)マイナビ)入社。新卒採用部門に配属になり、以来、その領域の営業や事業企画の仕事に携わる。2020年4月、「マイナビ仙台レディース」立ち上げプロジェクトメンバーとなる。2021年2月より現職。趣味はゴルフと、サウナで“整う”こと。

【概要】

株式会社マイナビフットボールクラブ

代表者 栗井 俊介
従業員数 10人(役員・出向社員を含む)
事業内容 「マイナビ仙台レディース」運営に関わる業務全般。リーグ戦をはじめ、各種公式戦の興行企画・運営、チーム関連グッズの企画販売、ファンクラブ企画・運営、下部組織の運営業務など、スポーツチーム運営に関する事業を中心に、新規事業の創出にも取り組む。

所在地 仙台市泉区明通1-1-2(本社)

T E L 022-342-1130

H P <https://www.mynavisendai-ladies.jp>



WEリーグ(Women Empowerment League)

今年9月に開幕する日本初の女子プロサッカーリーグ。女子サッカーにおける日本のトップリーグで、現なでしこリーグの上位に位置し、初年度はマイナビ仙台レディースを含む11クラブが参入。リーグの名称には、「日本に『女子プロサッカー選手』という職業が確立され、リーグを核に関わるわたしたちみんな(WE)が主人公として活躍する社会を目指す」という思いが込められている。

9月12日、日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」がいよいよ開幕します。現在のお気持ちをお聞かせください。

私個人の率直な感想としては、「あつという間だった」というのが本音です。しかし、これまで女子サッカーに注目してこられた方々にとっては、大変、待ち遠しかったのではないのでしょうか。

日本における女子サッカーの歴史は長く、アマチュアリーグである「なでしこリーグ（日本女子サッカーリーグ）」も誕生から30年以上の時間が経過しています。今回初めて、プロリーグが誕生するということ、日本の女子サッカーの歴史の中でも非常に大きなニュースだと思いま

Closeup Interview

選手全員とプロ契約を結び、今ある全てを超越する覚悟で優勝を目指します。

す。しかし一方で、まだ認知度が低いので、もっと多くの方に注目していただくためには、より一層の努力が必要だと感じています。ちょうど10年前、なでしこジャパンがワールドカップで優勝し、女子サッカーは大いに盛り上がりました。WEリーグは、あの盛り上がりを超えなければならぬですし、超えないと意味がないとも思っています。

WEリーグ参入を決めた経緯を教えてください。

弊クラブの母体であるマイナビでは、これまで、さまざまなスポーツをスポンサーという立場で応援してきました。その中で、東日本大震災からの復興支援を模索していたところ、ベガルタ仙台と出会い、2014年からスポンサーという形でご縁を紡いできました。マイナビ仙台レディースの前身である「ベガルタ仙台レディース」についても、2017年からマイナビがトップスポンサーを務めてきました。そして今回、WEリーグへの参入を決断したわけですが、それは、私たちが「プロ女子サッカー選手」を一つの職業として成り立たせる」という理想をもっているからです。子どもたちの憧れの職業の一つの



泉パークタウンサッカー場で行われた練習の様子。9月12日のリーグ開幕戦に向けて、綿密な調整が行われていた。

選択肢となるよう、使命感をもって人材育成を含むクラブづくりに取り組んでいきたいと考えています。

それで、選手の皆さんとは全てプロ契約を結ばれたのですか。

職業として選択肢に挙がるものにしたということ以外にも、全員とプロ契約を結ぶことで、練習環境の向上はもちろん、選手個人の意識をプロフェッショナルとしてきちんと引き上げ、磨き上げようと考えたからです。私たちは「優勝を目指す」と公言していますので、それを成し遂げるために100%の力を注ぎ込める環境を整えようという思いがあります。

には現役時代から着手し、弊チームでも、キャリア形成に関する研修を実施しています。その積み重ねにより、クラブとしてのブランド力を高めていくことで選手を引きつけ、その数が多ければ多いほど成果を出す力につながります。強いチームには注目とお金も集まるわけですから、このようなブランディングは、ビジネスとして持続するために必要なことであると思っています。

チームスローガン「Shoot for the stars」に込めた思いも含め、今後の抱負をお聞かせください。

「Shoot for the stars」は、チームのエンブレムにも入れていて、「常に高い目標を目指す」という意味です。その後、続く「超越」はシーズンスローガンとして使っています。私たちはこれまで、決して強いとは言えないチームでしたが、「優勝を目指すのであれば、ありとあらゆる要素において今を超えよう」という覚悟をこのスローガンで示しました。一人一人の能力向上だけでなく、チームとしての存在感をいかに高めていくかを考えながら、実践していきたいと思っています。マイナビ仙台レディースが「勝ち」を追求する姿にぜひ、ご期待ください。

本誌18ページ「がんばれ！ 都マイチーム」で、9月のホームゲームの試合日程を紹介しています。

注目選手を紹介します！



10 FW 浜田 遥
皆さんに応援していただけ「愛されるチーム」になれるようがんばります！



11 MF 長野 風花
仙台を盛り上げます！



9 FW 宮澤 ひなた
皆さんにたくさんの笑顔をお届けできるようにがんばります！

さらに、一人のプロの選手としては、ファンをどれだけ惹きつけられるかも大切です。自身の魅力をセルフレプロデュースし、発信することが求められます。それに磨きをかけていくことが、チーム全体の魅力向上にもつながっていくのだと考えています。

東北では唯一のプロ女子サッカークラブとなりますが、地域との関わりについて、どのように捉えていますか。

地元を中心として、女子サッカーを普及させたいと考えています。まずは、その第一歩として、弊チームの活動を通して、仙台・宮城・東北の女子がサッカーに積極



的に取り組むようになり、「プロを目指しても良いのだ」と思える土壌を形成したいと考えています。

また、私たちには、ベガルタ仙台レディースのみならず、その前身である「東京電力女子サッカー部マリーゼ」からバトンを受け取った責任があります。マリーゼが東日本大震災によって休部を余儀なくされ、存続が危ぶまれる事態に陥ったとき、そのバトンはベガルタ仙台へと引き継がれました。このような経緯を踏まえ、仙台を発信源として仙台・宮城・東北の存在感を全国に示そうという気概を

もって活動していきます。皆さんを笑顔にしたり、地域を盛り上げることが、震災からの復興につながると思っています。もちろん、アマチュア時代に選手を支えていただいた地元企業との関係も、一層大切にしていきたいと思っています。私は、弊クラブを「日本でいちばん、ひびくのが育つクラブ」と位置づけ、「マイナビ仙台レディースには成長する可能性がある」という価値、ブランドをつくりあげたいと思っています。マイナビでは、全アスリートを対象としたキャリア支援事業も行っており、特にセカンドキャリア形成支援

大切な人のために、やがて生まれ来る子供たちのために、

宇宙のオアシス・地球。ただひとつの、この青い星を私たちは、守って行かなくてはなりません。大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。

私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。

私たちは、青葉環境保全です。

